

インターンシップ・PBL 報告会 総合討論

日時：2018年2月9日(金) 16:30~17:00

場所：東京大学工学部2号館2階221講義室

◆ リコー 川口様



- 会社の研究室でやりたくても中々できないことをやってもらった。
- PBL での成果を機械工学会のロボティクス・メカトロニクス部門で発表する予定。
- インターンシップ生を受け入れるのは双方メリットがある。学生と一緒に考えることで、社員が鍛えられる。学生にとっても、大学で学べないことを経験できる。
- 他の会社も、インターンシップにもっと取り組んだらどうか？

◆ JR 東日本 大亦様

- 東京及び仙台の新幹線車両センターを見学して頂いた上で、今回のテーマに取り組んでもらった。
- A チームは、装置を使った実験をした後、職場の社員に装置の使い勝手や感想を求めている。産学連携なので、実際に何が求められているのかを把握していくのがよい。
- 共同でプロジェクトを進める人の意見を取り入れて、役立つ研究成果を挙げるのに生かしてほしい。



◆ 荏原製作所 豊田様

- テーマが大きく、学生は苦勞したかもしれない。
- 3月に社内報告会を行う予定。
- 企業は、製品化の際、こういった社会問題を解決しうるのかを考える必要がある。目先の利益だけではない。
- 安全、資源、人権、環境に対する影響を総合的に考えるのが企業。
- 既存のものと差別化される要素も大事。
- 東京ガスのチームが提案した EV のバッテリー交換のように、社会のシステムを変革するようなアイデアを提案してほしい。
- PBL の機会を生かして、色々なイノベーションを生み出してほしい。



◆ 東京ガス 福田様



- なぜ EV にしたか？最近電気を売り始めていて、家庭周りのサービス等も始めている。その流れの中で、EV をテーマに掲げた。
- サービス的な視点で新たなビジネスモデルを提案してほしい。
- PBL の成果を基に、特許や事業化に関して検討している。
- 英語でファシリテートするのは大変だったが、大変刺激になった。

◆ 商船三井 齊藤様

- PBL を始めるにあたって、船で物を運ぶ仕事のイメージが湧かなかったかもしれない。
- 自船周辺の障害物は死角に入ってしまうという船の難点に関して、新たな視点をもらえてよかった。
- テーマが次世代にむけた技術開発で、難しかったかもしれない。既存概念にとらわれない発想で提案してくれた。
- 英語での大変な議論だったかもしれないが、企業にとっても学生にとってもよい経験になった。



◆ MTI 木村様

- 最近企業でも、ドクターの採用に積極的。即戦力ということもあるが、研究室での後輩の指導等を経験した人材は貴重。
- IoT など異なる技術要素が複雑に絡む様な難しい案件が増えているが、それらを楽しみながらチームをリードしてくれるようなリーダーを探している。



◆ 東京大学 金子先生



- 皆が考えるものは大体すでに考えられている。
- あっと驚くような話はなかった。皆が同じベクトルを向いている。
- 工学系のドクターなのだから、計算をしてほしい。Evidence-based が大事。研究室のツールを使ってもよい (CAD, CAE 等)。
- モノを作ってほしい。プロトタイプでよい。文系のビジネスコンテストではないのだから。

◆ JST 山本様

- 自国語でない言語で、よく伝わるようにやってくれたが、まだ発展途上。
- 社会のニーズを知ること (鉄道、宇宙等)。そこからアントレプレナー等にどう繋げるか？



◆ 東京大学 原田先生



- 技術を社会で実際に使えるものにするには研究とは違った側面があります。
- 皆さんは、何らかのスペシャリストになる必要があります。世界の常識にしたがって行動していかなければなりません。
- GMSI, GSDM, CIAiS はたくさんの機会を与えています。そのような機会を活用してください。